

## 東日本大震災復興 NPO 支援・全国プロジェクト

仙台事務局 メルマガ NO5 (7月26日発信)

皆様のお陰で、「のんびりすみちゃん家」の伊藤寿美子さん、「ささえ愛山元」の中村怜子さんが元気になってきました。ある被災者がテレビのインタビューで、「津波の後の瓦礫の山を見た時は、もうここに住めないと思った。でも知人やボランティアが来てくれて、少しずつ片付いている様子を見ると元気が出てきて、後は自分たちで何とかやっていけると思いました」と答えていましたが、私たちの熱い想いと行動が、萎えていた二人の心に明かりを灯したのかもしれない。

この灯が消えないように、引き続き、ご支援を宜しくお願いいたします。

~~コンテンツ~~

仙台事務所移転

支援金について

全国老人給食協力会「ふきのとう」を紹介

7月10日、第2回パラソル喫茶 in 仙台市（荒井2号公園）

7月15日、パラソル喫茶 in 亘理

7月20日、東松島市の仮設住宅をリサーチ

7月22日、第3回パラソル喫茶 in 仙台市（荒井小学校用地）

### ■仙台事務所移転

7月25日、事務所を移転しました。4ヶ月間でしたが、「介護の社会化を進める1万人市民委員会宮城県民の会」の事務所の皆様、ありがとうございました。立ち上げたばかりで何もない中、色々と教えてくださって本当にお世話になりました。特に女性スタッフの方々が親切にしてくださったお陰で、間借りとはいえとても居心地の良い事務所でした。しかし活動が活発になるにつれ、机を2台しかおけない状況は限界となり移転を決めました。

新しい事務所は、東京方面からいらっしゃっても地図を片手に探しやすい所ということで、地下鉄の最終駅（泉中央）で降りて、泉警察署の真向かい、COCOSの裏手にある4階建ての4階に決めました。広さは68㎡、エレベーターのないのが難点ですが、その分家賃が安くて助かります。事務所なので風呂設備がありませんが、畳を敷き、雑魚寝で2～3人は泊まれるようにしますので、どうぞお立ち寄りください。

〒981-3133 仙台市泉区泉中央4丁目2-7 第5TASビル401

☎ 022-342-9155 FAX 022-342-9156

E-mail fukushi.npo.shien@gmail.com

### ■支援金について

仙台事務所として特に支援金の募集をしているわけではないのですが、数回にわたり団体と個人の方が振り込んでくださっているので紹介します。

・ヨーガライフシステム研究所（2回） 合計 87,012円

・西野さん（7回） 合計 120,000円

大切なお金を、支援活動にと振り込んでいただきまして本当にありがとうございました。

ヨーガライフシステム研究所は、イベントやヨガ教室の際に呼び掛けて集めた浄財を振り込んでくださいましたし、また西野さんは、電話で「島国に住んでいる同じ日本人として支援するのは当然のこと。でも 3,000 円でも良いですか？」と数回にわたり振り込んで頂きました。この方たちの想いを受け止め、1 回目はゴーヤ 20 個を仮設の各家に配りました (75,000 円使用)。残りはパラソル喫茶の経費に使わせて頂きたいと思っておりますが、より有効な使途となるよう検討します。

## ■全国老人給食協力会「ふきのとう」を紹介

7月14日、「さわやか福祉財団」のフォーラムがありました。私も近藤さんもインストラクターをしていますので、お手伝いに参加しましたが、その席で「NPO 法人浦戸福祉会」の代表に会いました。浦戸諸島は塩釜市から船で 30 分の所にあり、離島ゆえ、いまだに瓦礫が残り支援物資もなかなか届かなかったという話を聞きました。これまで、浦戸福祉会は任意のデイサービスをしてきたにもかかわらず、島の人達からなかなか理解してもらえなかったようですが、今回の震災で島のボランティアセンターのような役割を担ったところ、ようやく NPO 活動の必要性に気づき、民宿だった所を事務所にと提供してくださる人が現れたそうです。震災後の活動を通して、思いの外、一人暮らしの高齢者が多いことを知り、配食サービス等も視野に入れて活動していきたいと言うので、早速「老人給食協力会ふきのとう」を紹介しました。実際に、サービス提供できるまで話が進むと良いですね。

このご縁を機に、工場用大型扇風機、布団 5 組、本などを送らせていただく予定です。

## ■7月10日、第2回パラソル喫茶 in 仙台市（荒井2号公園）

「茂庭台すずめの宿」チームがデビューしました。《すずめの宿は太白区茂庭台地区で鈴木啓子さんが中心となって週1回宅老所を開いています。手づくりこだわり、心をこめたおもてなしで、高齢者に寄り添った活動をしています》

6月の東松島市（小野市民センター）のパラソル喫茶に参加しましたが、地元仙台市内で行うのは初めてとあって、仮設にお住まいの人たちと近隣の人たちとの交流を目的に、あえて1対1でじっくりと語り合える小さな仮設所 2 号公園を選びました。

日曜なので、子どもたちに本当の餅つきを体験させたいと臼や杵を借りて張り切っていたのですが、残念ながら参加者は少なく、後で聞いたところによると、その仮設には同じ企業で働いている男性が多く住んでいて、日中は人が少ないということでした。事前にチラシを配り、地区の町内会長さんに挨拶に行ったりしたのですが、協力者のいない所でパラソル喫茶をするには、顔なじみになるまで何回も足を運ばなければいけないのかもしれない。

特に東北人は、内気で恥ずかしがり屋のところがあるのでなおさらです。



## ■7月15日、パラソル喫茶 in 亶理

「ささえ愛山元」仮事務所へ到着後、スタッフの住む亶理町の仮設住宅へ向かいました。30℃を越える炎天下のもと、テントとパラソルを開いてもまもなく、続々とお客様が集まり、用意していた冷たい緑茶は早々になくなってしまいました。でも、名古屋の「介護サービスさくら」理事長の

村居多美子さん（元喫茶店のママ）に参加して頂いたお陰で、コーヒーは「プロの味」を提供することができました。しかし、今回の目玉はなんといっても「古着市」の開催。入場制限や時間制限をしたほどの「大入り」で、主婦の皆さんは自分の物はさておき、ご主人の夏物の服等を選んでいました。やはり皆さんはこの暑さの中、「夏物」を求めていらっしゃるのですね。



猛暑にもかかわらずお客様は 100 人近くいらしてくださって、大好評のうちに「店閉まい」となりました。一方で、終わりの頃に「これは誰でも参加できるのですか？」と聞きにこられる方もいて、イベントを平等に周知する難しさを感じました。冷たい飲み物の補充とともに次回の課題したいと思います。（大久）

## ■ 7月20日、東松島市の仮設住宅をリサーチ

東京から牧野史子さんに来て頂き、現在の東松島市の仮設住宅がどうなっているか 3ヶ所をリサーチしてきました。東松島市には全部で 23ヶ所の仮設があり、以下の仮設以外はほとんどが 20戸前後の小さな仮設が点在している状況です。50戸以上の大きな仮設には集会所が必要で、住人の中の世話役的な人が役場から鍵を預かって管理していました。

- ①グリーンタウン1（277戸）      グリーンタウン2（300戸）
- ②矢本運動公園      （393戸）      ③ひびき工業団地（203戸）

上記の集会所に行って驚いたのは、色々な企業やボランティア団体が様々な支援をしていること。各集会所には、福岡の企業から贈呈されたという座卓やベンチ等があつて居心地の良い空間を創っていました。しかも夏休みということもあつて、週1ペースで寺子屋を開催している団体のチラシや就職の斡旋等のチラシ、東京都大田区の緑（ゴーヤ）のカーテン等があつて、世話役は支援を申し出てくる団体の対応に追われているようでした。しかしここで問題なのは、かなりの人達が入居しているにもかかわらず、行政は一度も訪れず、自治会組織をつくりたいと思っても、そのような指導はないとのこと。非常に残念なことですが、幸いにもグリーンタウンにはリーダーシップをとる世話役がいましたので、まもなく自治会組織を自主的に立ち上げるのではないかと感じました。

③のひびき工業団地はパラソル喫茶をこれまでに2回実施した所です。訪れると、そこかしこに顔なじみの方がいて「今度は何をするんですか？」と声を掛けられまでになりました。牧野さんの「故郷に帰って来たみたい～」という言葉に全てが凝縮されるように、キーマンの一人であるOさんの家に挨拶に寄ったところ、居間に通され、すいかや飲み物をご馳走になってきました。

## ■ 7月22日、第3回パラソル喫茶 in 仙台市（荒井小学校用地）

ナルク（NALC）チームがデビューしました。《ナルクとは、自立・奉仕・助け合いの理念をモットーに活動するボランティア団体。全国に活動拠点を設けて移動サービスなど高齢者・障がい者の生活介助を中心とした活動を行っています》全国プロジェクトの一員でもあり、代表の林さんを含めて総勢 15 人が集結。てきぱきとパラソルやテーブルをセットし、さすが日頃から助け合い活動をしている団体の手際良さを感じました。夏休みということもあって子どもたちはカルピスを、大人はコーヒーを頼む方が多く、Sさん手づくりのマドレーヌを食べながら、ひと時のおしゃべりを楽しんだようです。男性陣を引っ張り出すために囲碁や将棋を準備したのですが参加者は一人だけ…。ちょっとガッカリしましたが、その代わり、爽やかなお天気のせいかな、男性もチラホラとベンチに座り談笑して行かれました。一時は準備した椅子もなくなるほどの盛況で、青空の下、パラソル喫茶をする甲斐がありました。折しも、神戸新聞の取材に答えていた女性の声、「部屋に籠っていると気が滅入るので外でお茶を飲むとホッとします…」と語っているのが耳に入ってきました。人と人がつながっていくには時間がかかります。そのきっかけになることを願って、これからもパラソル喫茶の花をあちこちで咲かせていきたいと思っています。

